

【純口話法主義の名古屋聾学校橋村徳一先生の素顔その2】

2002年11月30日(土) 12月1日(日)

日本聾史学会第5回大阪大会

愛知県一宮市 桜井強

【橋村徳一先生の教え子】

愛知県中島郡祖父江高等小学校在職の時代に橋村先生の教えを受けた生徒
吉田・伊藤・松永・松岡らは、祖父江町出身。安藤は、愛知県丹羽郡出身

吉田角太郎氏(1890-1974)は、奈良県立聾学校長

伊藤舜一氏(1892-1978)は、大阪府立聾口話学校長(現・生野聾学校)

松永栄重氏は、静岡県立盲啞学校長(現・静岡県立聾学校)

松岡若義氏は、愛知県立豊橋聾学校長

安藤太三郎氏(1887-1968)は、東京市立聾啞学校長(現・東京都立大塚聾学校)

[参考文献：人の話を目にて知る]

■ 吉田角太郎氏の主な代表作 リズム教育を提唱

「実相聾教育概論」「実相聾教育初等部指導体系」「聾児発語読本」「聾児国語教授法」
「リズム陶冶の実践」「リズム教育の本質とその実際」「リズムを基調とした音声言語教育の要訣」「書きことばの教育」「生命の教育」

■ 伊藤舜一氏の主な代表作

「日本聾啞秘史」「ろうあ会話読本」

橋村徳一校長先生と苦楽を共にされた方

富板信弥氏は、岐阜県立聾学校長

樽村鋭彦氏は、愛知県立豊橋聾学校長→愛知県立岡崎聾学校長

山田五雄氏は、愛知県立一宮聾学校長

後藤正明氏は、愛知県立千種聾学校長

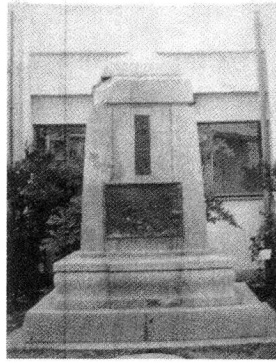
[参考文献：名聾八十年史]

- 橋村先生の師弟の間柄にあったのは大変驚いていた。それぞれ有力校長先生に栄進して活躍したのは大変興味深い。今回の研究調査時間が足りない為、研究中断した。時間の許す限り、研究調査を継続したいと思っています。さらに奥深く分析し次回に研究発表させて頂こうと思う。

【橋村先生記念像の原型】



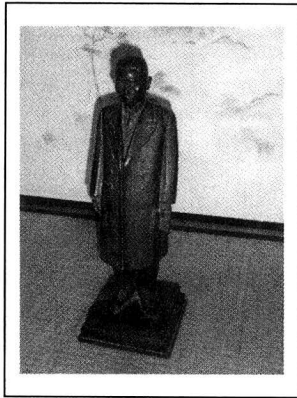
太平洋戦争の為、銅の供出前



銅の供出跡



橋村徳一氏の銅像原型



【橋村徳一氏の銅像原型データ】

高さ 40センチ

幅 20センチ

ブロンズ製

重さ 不明（未測量）20～30キログラム？

昭和12年10月1日愛知県聾学校創立25周年記念日にあたり、橋村先生記念像除幕式。
昭和18年3月20日太平洋戦争の為、銅の供出という式で、銅像の壮行訣別式。
昭和39年1月10日愛知県立名古屋聾学校に移築（新築）され、銅像台座の移転した。



中部日本新聞 昭和18年3月21日付

【聾者の父の銅像も征く】

わが国最初の国語教育法の創始者で全国聾者の父といわれる千種区池下町橋村徳一翁(65)の銅像も
応召一銅像のある千種区振甫街愛知縣聾学校では
元同校校長橋村氏銅像の壮行訣別式を卒業式の二十日朝十時から當の橋村氏はじめ今井校長、全生

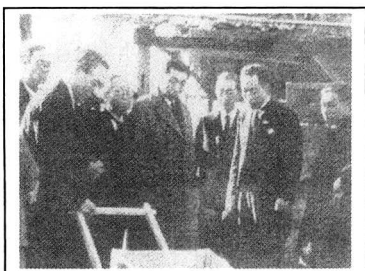
徒、父兄らが参列して行った。この銅像は目方にして百貫、門下生や生徒、父兄らの浄財で昭和十二年十月に完成したのも、式終了とともに直ちに引下し作業に赤だすきも勇しく米英撃滅へ無言の征途についた。なお校庭にある二宮尊徳翁の銅像も同時に応召した。

昭和23年7月17日、財団法人八光会の名称を変更された。

◆ 財団法人八光会の概要 ◆

1. 名称 財団法人 八光会
2. 所在地 本部 名古屋市東区東白壁町19番地
授産所 愛知縣愛知郡鳴海町天白51番地
3. 沿革 (1) 昭和19年3月佐治八光会を設立し事務所を名古屋市中区南大津通に置く
(2) 昭和20年2月大日本八光会と改編し事務所を木曾川町に移転す
(3) 昭和21年1月八光会と改編し本部を名古屋市東区東白壁町に置く
(4) 昭和21年7月17日財団法人八光会設立の許可あり
(5) 昭和21年10月1日生活保護法による保護施設として指定せらる
(6) 昭和22年9月鳴海授産所の建設工事施工す
(7) 昭和22年12月6日高松宮殿下御視察遊さる
4. 目的 (1) 身体障害者主として難聴聾啞者を生活産勤労に導入すると共に其の厚生
教化の発達を図る
(2) 生活困窮者を收容保護し個性に慶ずる独立生計となし得る如く生産加工
技術を修得せし出る
5. 事業 (1) 相談所の開設
(2) 生活困窮者及聾啞者の收容(宿舍提供)
(3) 授産及技能養成所の設置
(4) 職業、結婚等の斡旋
(5) 教養を高め文化の向上を図る施設
6. 土地建物 鳴海授産所
(1) 敷地 1770坪
(2) 建物 442坪
内訳 寮150坪・木工場150坪・ミシン場15坪・教室30坪
その他97坪
7. 人員 (1) 理事及監事5名 職員8名
(2) 收容定員 イ. 收容(宿泊)男80名女20名家族3組
ロ. 授産所(勤務)木工部20名鉄工部5名ミシン部15名
ハ. 技能養成 25名

橋村徳一氏は、「副会長」という肩書きがあった。



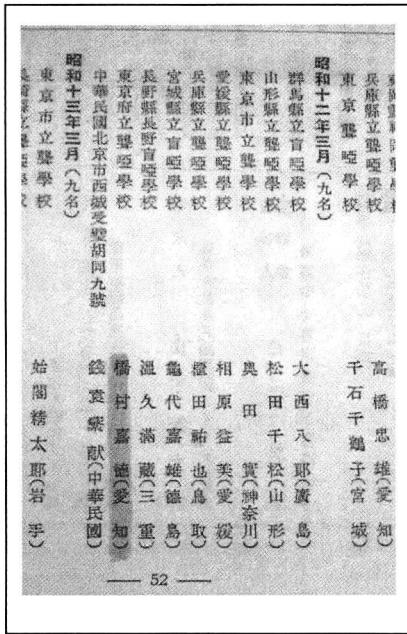
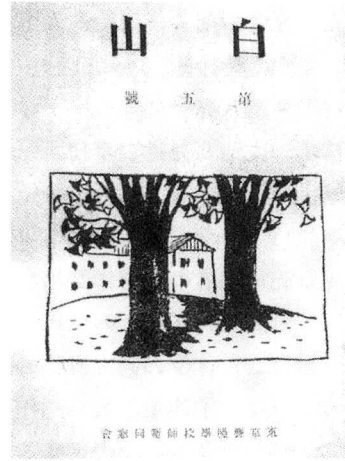
昭和22年12月6日、「共同募金」の総裁である高松宮殿下が八光会鳴海授産所に来所された折、殿下に聾啞者の作った手押し車の説明をする風景橋村徳一氏は、左から3列目。

【知られざる橋村徳一氏の親子 息子 橋村嘉徳氏】

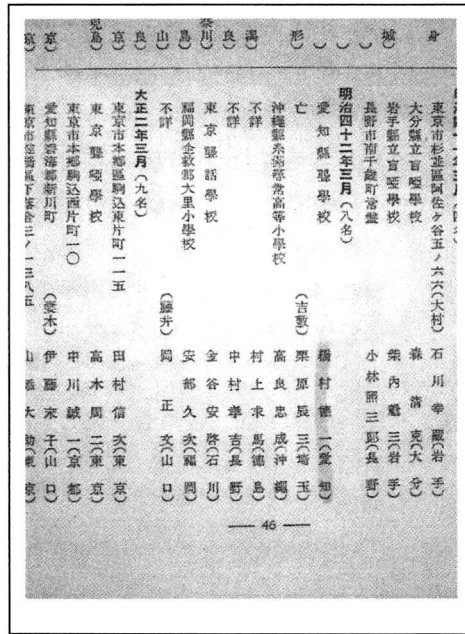
東京聾啞学校師範同窓会「白山」第5号によると、橋村徳一氏の息子 橋村嘉徳の名が記載してあった。

昭和12年3月（九名）

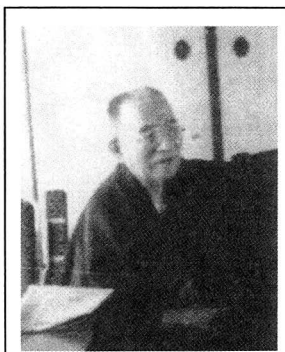
卒業年月日奉職校	姓名	(出身)
群馬県立盲啞学校	大西八郎	(広島)
山形県立聾啞学校	松田千松	(山形)
東京市立聾学校	奥田広	(神奈川)
愛媛県立聾啞学校	相原益美	(愛媛)
兵庫県立聾啞学校	櫃田裕也	(鳥取)
宮城県立盲啞学校	亀代嘉雄	(徳島)
長野県立長野盲啞学校	温久満蔵	(三重)
<u>東京府立聾啞学校</u>	<u>橋村嘉徳</u>	<u>(愛知)</u>
中華民国北京市・・・	銭哀繁献	(中華民国)



【息子 橋村嘉徳氏の名】



【父 橋村徳一氏の名】明治42年3月卒



橋村嘉徳氏本人写真 昭和43年9月 橋村家所蔵
 盲啞教育の父（徳一氏）の跡を継ぐ為に上京して、東京府立聾啞学校に奉職した。昭和20年3月、東京空襲の為、名古屋に帰郷。聾教育界を離れた。

【財団法人八光会の前身・佐治八光道場について】

昨年（2001年）10月20日（土）第4回日本聾史学会松本大会で研究発表された「八光会」という事については、もう少し掘り起こしてみました。

財団法人八光会の前身・佐治八光道場では、昭和19年8月3日創立した。

◆ 佐治八光会要項 ◆

1. 名称 佐治八光会
2. 事務所 佐治八光道場事務所（名古屋市栄区）
3. 目的 技術を鍛磨し心身を鍛錬し和楽皆働して戦力の増強を図る6. こと
4. 事業 (1) 会員相提携して必勝信念を強固にし社は及心得を奉公して職務に精励し
卒先垂範後進者の善導に努め和楽皆働の賞を挙げること
(2) 科学技術の修練並に国語及社法等の修養に努むこと
(3) 体位の向上操作の醇化常識の補充に努むこと
(4) 国体生活及共同作業の互助に努むること
(5) 遂行者を表彰すること
(6) 住宅及び結婚の斡旋をなすこと
(7) 生活援護及び慶弔慰安をなすこと
(8) 会誌「八光」を編纂すること
(9) 難聴聾者傷患者、聾啞者に関する調査及其の勤労働員につき研究すること
(10) 其他本会の目的を達成するに必要なこと
5. 会員 (1) 特別会員 佐治八光道場の役員及職員
(2) 通常会員 佐治八光道場の場員
6. 組織 口話（難聴、聾、傷患者）手話（聾啞者）の二部に分ち各部に総務修練福祉の三係を置く但當分は一部のこと
7. 役員 省略
8. 会議 総会は年1回、役員会、協力会議、会員常会は随時口話、手話別に開催すること
9. 会計 省略
10. 付則 省略

橋村徳一氏は、「指導総監」という肩書きがあった。



八光要目(昭和19年10月8日)



佐治八光道場乾燥部における作業状況

【橋村徳一氏の余生時代】

昭和24年4月24日東海聾啞連盟結成式の機に、橋村徳一氏は相談役に就任。



橋村徳一氏は、右から3列目です。

昭和25年10月8日愛知県ろうあ福祉連合会結成式の機に、橋村徳一氏は相談役に就任。

昭和27年10月1日長岡村（現・祖父江町）教育委員に就任。

昭和28年9月5日中島郡ろうあ福祉連合会設立の際、相談役に就任。

昭和31年5月22日祖父江町身体障害者福祉協会会長に就任。

昭和33年2月5日愛知県身体障害者連合会再建副委員長に就任。

昭和34年7月10日愛知県身体障害者連合会理事になり後参与に就任。

昭和35年8月25日「口話式聾教育 音韻教授法」発行

【聴覚障害者団体及び聴覚障害教育団体関連の感謝状・表彰式】収録

橋村徳一殿

貴下は多年に亘り本邦ろう教育の進歩発展につき格段の努力を効され功績顕著であります。本大会に於て記念品を贈呈し茲に深く感謝の意を表します。

昭和34年10月7日

財団法人全日本聾啞連盟総裁 徳川義親

橋村徳一殿

貴殿は多年教育者として盲ろう者の訓育に尽すいし、特にろう教育に関する幾多の著者を刊行して斯界を啓発するとともに口話式教育法の普及に献身し、本県の教育振興に貢献せられ、その功績顕著である。よって愛知県表彰条例により表彰する。

昭和35年2月23日

愛知県知事 桑原幹根

橋村徳一殿

あなたは多年特殊教育に尽すいせられ、その功績はまことに偉大なものがあります。しかも退任後も引続き特殊教育振興のため、たえず後援ご指導を賜わり関係者一同感激にたえないところであります。ここに感謝状を贈呈し感謝の意を表します。

昭和35年6月14日

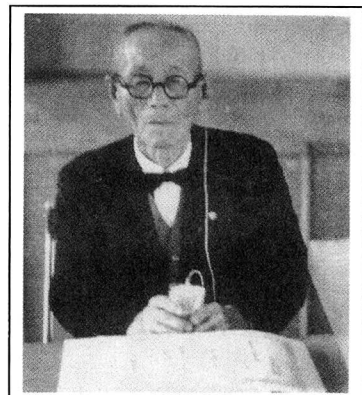
愛知県立特殊学校校長会長 佐藤健次

橋村徳一殿

あなたは、わがろう口話教育創始者として、また広く身体障害者の教育に尽すいし特殊教育発展の基礎を築かれました。その功績により先般叙勲の榮に浴されましたことは特殊教育に携わる者一同の喜びとするところであります。本日愛知県特殊振興大会を催すに当り記念品を贈呈し永くあなたの功績を讃え、ここに感謝の意を表します。

昭和39年8月13日

愛知県立特殊学校校長会長 佐藤健次



橋村徳一殿

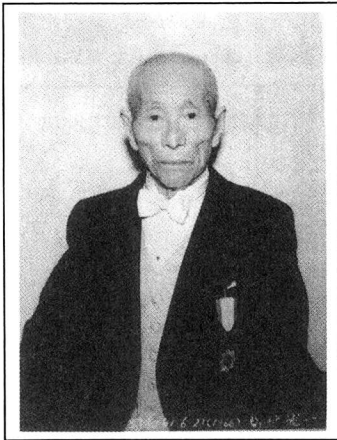
貴殿は本会結成以来相談役として各種の会議に出席され御指導を下され本会の今日あるは一に貴殿の御尽力の賜であります。敢て会員一同は貴下の御労苦に対し深甚なる謝意を捧げ茲に記念品を贈呈し微意を表します。

昭和28年10月18日

愛知県ろうあ福祉連合会 会長 中島敏之

日本国天皇は勲五等橋村徳一に雙光旭日章を授与する
 昭和39年4月29日 皇居において？を捺させる
 昭和39年4月29日 内閣総理大臣 池田勇人
 内閣総理大臣公房賞勲部長 岩倉規夫
 第3215197号

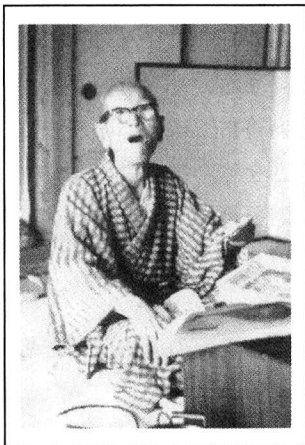
昭和39年4月29日付中部日本新聞尾張版掲載



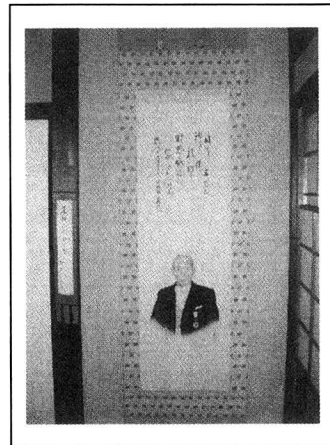
昭和41年6月23日撮影 88翁



若きの橋村徳一校長先生



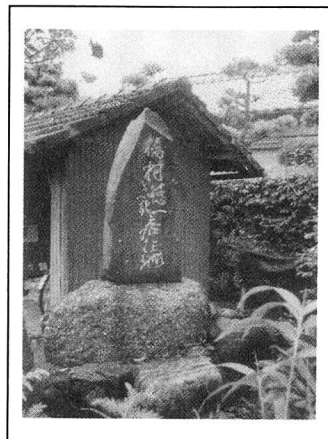
昭和43年9月？日撮影 90翁



自画像の掛け軸



← 橋村徳一氏のお墓
(愛知県中島郡祖父江町四貫にて)



(橋村徳一氏の移住地碑)

【参考文献】

- 人の話を目にて知る 橋村徳一著
- 亡き母の思い出集 橋村徳一著
- 口話式聾教育音韻教授法 橋村徳一著
- 橋村徳一氏遺稿 橋村家所蔵
- 名聾八十年史 愛知県立名古屋聾学校

【終わりに】

橋村徳一氏の生涯記録収録を取り組んでいたのだが、まだ足りないような気がします。残された課題といえば、昭和6年の欧米各国の盲ろう者教育視察についての研究調査中断をし、2足のわらじという事で時間的に余裕がない為、苦勞させている最中です。橋村家親族の皆様にご遺稿や遺品を拝借させて頂き、誠に感謝を申し上げたいと存じます。

【お願い】

今後の参考として、本書に関してはお気づきがありましたら下記の連絡先にご教示下さいますお願い申し上げます。

桜井強 FAX (0586) 51-7187 E-mail deaf@naa.att.ne.jp